津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2024. 6. 28　NO 19

ヤマボウシの花言葉

あちこちの庭木のヤマボウシが真っ白い花をいっぱい咲かせているのが目に入ってくるようになりました。ヤマボウシは初夏に花を咲かせる木です。その花言葉は“友情”、由来はその昔、東京市長が友好の証にアメリカに桜（ソメイヨシノ）を贈ったところ、返礼としてハナミズキが東京に届いたためハナミズキには“返礼”という花言葉が、ヤマボウシは同じミズキ科であるため“友情”という花言葉がついたそうです。友情で思い出される話があります。元ラグビー日本代表監督の平尾誠二さんががんを発症したとき、ノーベル賞受賞で有名な山中伸弥さんが多忙な中、必死に治療法を探したり、病室を訪ねたり、アメリカ在住時は常にメールで連絡を入れたりしたという話があります。

先日、ある教室をたずねると道徳の時間に「友だち」について考える学習をしていました。子どもたちは“友だち”の定義として、“お互い協力・信用・相談できる人”“けんかしても後で分かり合える”“一緒にいて安心できる”など一人一人が思っている友だち観を発表していました。時々、喧嘩やトラブルになったあとの対応を聞いていると「そうやって思っていたことは知らなかった」という声を耳にします。年々、子どもたち同士が言い合いによって喧嘩をするのではなく、実際に関わることを恐れ、“きっとこう思っているに違いない”と思い込み、互いに苦しい思いをしているケースが増えているように思います。だからこそ、友だちとは何かを考える今回のような機会は必要だと感じました。

別の日、ある教室で児童がプリントの間違いを直しているとき、消しゴムがなくて困っている時、その様子を見ていた別の児童が自分の消しゴムをもってその子のところにやってきて黙って消しゴムを差し出すという瞬間がありました。困っていた児童はにこっと笑ってとても嬉しそうでした。この時、私は「助けてくれる」「声をかけてくれる」など“～してもらう”のを待つだけではそうしてもらえないと不安になるのではないかと感じました。やはり、この消しゴムを渡した児童のように、自分から友だちに対してそっと何かをしようとすることが友だちづくりにとっては大事であると思います。中国の言葉に「人と交わるには心にて交われ　木に注ぐには根に注げ」とあります。相手のことを思い、自ら関わっていくことで友だち関係が一人でも二人でも広がっていってほしいと願っています。

２日（火）図書館ボランティア　おはなしのへや（２年）
３日（水）クラブ
４日（木）おはなしのへや（１年）
５日（金）安全５　デイキャンプ練習　団体貸出
８日（月）マザーグース（６年：３・４限）薬物乱用防止教室（６年５限）
９日（火）ネットトラブル防止教室（６年２限）
１０日（水）大掃除　スクールカウンセラー　守ってくれてありがとう８：１５～委嘱式
１２日（金）デイキャンプ（５年）13:20～
１６日（火）安全５　個人懇談会　　１８日（木）個人懇談会
１７日（水）個人懇談会　　１９日（金）終業式